第1回世田谷区子ども・若者・子育て会議議事録

▽日 時

令和7年7月18日（金）午前9：30～

▽場 所

三茶しゃれなあどオリオン

▽出席委員

加藤会長、久保田副会長、井上委員、猪熊委員、野井委員、萩原委員、堀井委員、くろだ委員、原田委員、佐藤委員、田中委員、高橋委員、三瓶委員、松田委員、小嶋委員、宮本委員、宇佐美委員、河口委員、明石委員、西委員、吉田委員、岡崎委員、古家委員、天野委員、村田委員、下村委員、山内委員

▽欠席委員

林委員、木村委員、宮下委員、膳場委員、川越委員、松永委員、廣岡委員

▽事務局

松本子ども・若者部長、寺西子ども・若者支援課長、渡邊児童課長、虎谷子ども家庭課長、石山児童相談支援課長、北川保育課長、渡邊保育認定・調整課長、小林保育の質向上担当副参事、大里保育の質向上担当副参事、河島児童相談所長、秋山学校教育部長、赤司学校経営・教育支援担当副参事、宇都宮教育総合センター長、米倉乳幼児教育・保育支援課長

▽資 料

- ・世田谷区子ども・若者・子育て会議委員名簿
- ・世田谷区子ども・若者・子育て会議条例
- ・資料1 世田谷区子ども・若者・子育て会議の開催および部会の設置について
- ・資料2 改正「世田谷区子どもの権利条例」の施行及び「世田谷区子ども・若者総合計画（第3期）」の策定について
- ・資料3 令和7年度保育待機児童等の状況について
- ・資料4 認可保育所等の入園申込みに関する取扱い変更について
- ・資料5 世田谷区における第1子保育料等無償化の取り組みについて
- ・資料6 区の補助事業による民設民営放課後児童クラブの整備・運営状況について
- ・資料配布 子どもの貧困対策計画（概要版）
- ・資料配布 令和5年度世田谷区子どもの生活実態調査結果概要
- ・資料配布 世田谷区保育の質ガイドライン

▽議事

寺西課長

皆さん、おはようございます。それでは、定刻になりましたので、まだ御到着されていない方がいらっしゃるかも分からないですけれども、今期の第1回子ども・若者・子育て会議を開会させていただきます。

本日は、お忙しい中、また大変お暑い中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。オンラインの皆さんも御出席、どうもありがとうございます。本日は、この後、会長選出をさせていただきますけれども、会長選出までの間、進行を務めさせていただきます子ども・若者支援課長の寺西と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、対面の会議とオンラインの会議とのハイブリッドで開催をさせていただきます。また、本日、オンラインでの御参加をいただいている委員ですけれども、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員でございます。御発言の際には挙手などをしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

本日は、資料を机上に配付させていただいております。大変申し訳ないですけれども、資料のうち、レジュメに書いてあります委員の名簿と条例が本日漏らしてございまして、大変失礼いたしました。次第以下、資料1から6、それから3種類の資料の配付をさせていただきます。また、会場の皆様にはファイルのほうに参考資料も置かせていただいておりますので、適宜御覧いただければと思います。また、委員の皆様様の委嘱状でございますけれども、会場にお越しの委員の皆様におかれましては、机上に配付をしております。オンライン参加の委員の皆様におかれましては、後日、郵送にてお送りをさせていただきます。

それでは、開会に当たりまして、子ども・若者部長の松本より御挨拶をさせていただきます。よろしく願いいたします。

松本部長

皆さん、おはようございます。子ども・若者部長の松本と申します。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

この会議ですけれども、御案内のとおり、昨年度までの子ども・子育て会議と子ども・青少年協議会を統合しまして、それらは地続きの施策であることから一体的に議論をしようということで、今期より子ども・若者・子育て会議となりました。これまでの会議から引き続きで受けていただきました皆様、そして、新たにお引き受けいただきました皆様、どうぞよろしく願いいたします。

区では、この4月から子ども条例を改正した子どもの権利条例を施行

するとともに、お手元にも置いてあります今後10年間の計画となります子ども・若者総合計画、また、それに加えて、社会的養育推進計画（中間見直し）の計画期間が今年度からスタートしました。子どもの権利条例は、条例の名称に権利と明記しているとおり、条文には具体的な子どもの権利を明示しております。この条例の検討に当たりましては、昨年度、中高生世代で構成します子ども条例検討プロジェクトを立ち上げまして、子どもたちの思いや意見を踏まえた活発な議論を行いました。私たち区や大人は、この子どもの権利条例と子ども・若者総合計画（第3期）を基に子どもたちの思いを大切に受け止め、また、子どもの権利が当たり前保障され、子ども自身が子どもの権利を実感できる、そして、若者たちが自分らしく活躍できる世田谷を目指して様々な取組を進めてまいります。

それでは、新たな会議がスタートしてまいりますので、委員の皆様の忌憚のない御議論をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

寺西課長

松本部長、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、本日は第1回目の会議となりますので、区の管理職について御紹介をさせていただきます。

進行の関係上、委員名簿の掲載をもって代えさせていただければと思いついて、お手元にお配りできていなくて大変申し訳ないんですけども、こちらのスクリーンに管理職を今回は総勢19名で、子ども・若者部、それから児童相談所長、保健所から健康推進課長、生活福祉課長、障害施策推進課長、また、教育のほうから、学校教育部、教育総合センターの管理職にも参加をいただいております。また、世田谷総合支所子ども家庭支援課長にも御参加をいただくという合計で19名の区の管理職が参加をさせていただいております。

それでは、続きまして、子ども・若者・子育て会議の委員の御紹介に移らせていただきます。それでは、またこちらの名簿を御覧いただきながらになりますけれども、お一人お一人、名簿の順に自己紹介という形で、御所属とお名前をお願いいたします。最初に、会場参加の委員から御紹介させていただきまして、次にオンラインの参加の委員をお願いをできればと思っております。

それでは、初めに、井上委員からお願いいたします。

井上委員

おはようございます。洗足こども短期大学の井上眞理子でございます。今回、初めて関わらせていただくんですけども、どうぞよろしくお願いいたします。

- 猪熊委員 皆さん、おはようございます。1度中断はあったんですが、子ども・子育て会議のほうで最初からずっと関わらせていただいております。また何か楽しい議論をしながら、よりよく進めていければと思います。よろしく願いいたします。
- 加藤委員 おはようございます。大妻女子大学の児童学科に所属している加藤悦雄と申します。どうぞよろしく願いいたします。
- 久保田委員 日本大学社会福祉学科に所属しております久保田と申します。子ども・子育て会議から引き続きという形になります。よろしく願いいたします。
- 野井委員 おはようございます。日本体育大学の野井と申します。今回、初めてということになりますが、どうぞよろしく願いいたします。
- 萩原委員 おはようございます。駒澤大学の萩原と申します。私も前身の会議も含めて、今回初めての参加となります。どうぞよろしく願いいたします。
- くろだ委員 おはようございます。世田谷区議会議員のくろだあいこと申します。私もこの会議は初めてなんですけれども、子ども・若者施策推進特別委員会でこの会議について議論をしてきたところなので、参加できることをすごく楽しみにしてまいりました。どうぞよろしく願いいたします。
- 原田委員 おはようございます。同じく世田谷区議会議員の原田竜馬でございます。くろだ委員と同じく、私自身も子ども・若者施策推進特別委員会ができたときから議論に参加してまいりましたので、今回、参加できることを大変うれしく思っているところでございます。よろしく願いいたします。
- 田中委員 おはようございます。区議会議員の田中優子でございます。数年空きました。長いこと子ども・青少年協議会で委員をさせていただいておりました。どうぞよろしく願いいたします。
- 高橋委員 おはようございます。世田谷の上馬にあります児童養護施設東京育成園で園長をしております高橋と申します。前回の子ども・子育て会議からの引き続きということで参加させていただきます。社会的養護のもとにある子どもたちの声を代弁するのが私の役割かなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。
- 三瓶委員 おはようございます。地域子育て支援コーディネーターの三瓶と申します。前回の子ども・子育て会議から引き続き参加させていただきます。地域の子育て中の親子さんと日々お会いしていることが毎日なので、たくさん声を届けることができたかなと思っております。どうぞよろしく

くお願いいたします。

松田委員 どうぞよろしく申し上げます。今回、区民版子ども・若者・子育て会議の所属で伺いました松田と申します。子ども・子育て会議のときに少し関わらせていただきました。また改めてよろしく申し上げます。

宇佐美委員 おはようございます。宇佐美武志です。青少年地区委員会の代表として、今回2年間お世話になります。7、8年前まで7年間、世田谷区青少年委員会の代表として、子ども・青少年協議会のほうで参加させていただいております。よろしく申し上げます。

河口委員 おはようございます。世田谷区立小学校PTA連合会、通称、世小Pの代表としてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

明石委員 おはようございます。私は民生児童委員、主任児童委員としてこちらに参加させていただいております。以前は子ども・青少年協議会で参加しておりました明石です。よろしくお願いいたします。

西委員 西百合子と申します。私は公募区民委員ということで参加させていただいております。子どもが3人おりまして、小学生2人と保育園児1人でございますので、そういった区民の立場から御意見をできればなと思っております。よろしく申し上げます。

吉田委員 おはようございます。吉田凌太と申します。私は今、慶應義塾大学のメディアデザイン研究科という大学院に所属していまして、来年、結婚予定なので、一区民として、すばらしい社会を築けたらなと思っております。よろしく申し上げます。

岡崎委員 おはようございます。岡崎美乃です。世田谷の小学校から中学校まで卒業しまして、育ってきた世田谷区をよりよくしたいと思って参加しました。所属は公募区民委員になっています。よろしく申し上げます。

古家委員 おはようございます。昭和女子大学の古家美咲です。あいりすのスタッフをやらせてもらっています。よろしく申し上げます。

天野委員 日本大学社会福祉学科に所属しています天野伊織です。2年間よろしく申し上げます。

村田委員 世田谷少年センターの村田と申します。引き続きお世話になることになりました。よろしく申し上げます。また、警視庁の機関ですので、名前にはそれが載っていない状況ですけれども、警察官ですので、どうぞよろしく申し上げます。

下村委員 希望丘青少年交流センター「アップス」のセンター長の下村と申します。今年からユースコーディネーターという形でも活動しています。よろしくお願いいたします。

山内委員 おはようございます。せたがや若者サポートステーション相談員を

やっております山内と申します。世田谷以外の地区の方もなんですが、日々、若者の就労支援をしております。今回、初参加となります。よろしくお願ひいたします。

寺西課長

ありがとうございます。

では、続いてオンラインの委員の御紹介をさせていただければと思います。画面を切り替えていただいてもよろしいでしょうか。

まず、堀井委員からお願いできればと思います。

堀井委員

皆様、おはようございます。国士舘大学の堀井と申します。本日、11時半から学内の会議があるため、オンラインで失礼いたします。子ども・青少年協議会のときからお世話になっております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

佐藤委員

皆さん、おはようございます。世田谷区議会議員の佐藤ひろとでございます。前身の会議を含めて、2回目の参加となります。大変重要な会議として、有意義な、また活発な議論を皆さんとできるようにしっかりと取り組んでまいりたいと思います。本日はオンラインでの参加、大変失礼いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

小嶋委員

さくらしんまち保育園の小嶋と申します。私立認可保育園は200園ぐらいあるんですけども、私はそこで園長会の会長も務めさせていただいております。保育園を代表してということと、口幅ったいんですけども、しっかりと議論に参加させていただければと思います。

今日は大切な初回なんですけれども、申し訳ございません、長野県で講演会がありまして、そちらのほうから参加させていただいております。よろしくお願ひします。

宮本委員

おはようございます。世幼P連の宮本と申します。今日は子どものお迎えがありまして、会場に参加できず、申し訳ありません。なお、お迎えの関係で途中で退席させていただくんですが、会議に参加できて光栄です。よろしくお願ひいたします。

寺西課長

それから、委員名簿をもう一度映していただきたいんですが、今、ユースカウンスルという若者の会議体をこの7月に設けているんですけども、そこから若者委員としてもう1名選任をする予定になっております。今、空欄になっているところなんですけれども、合計で35名の委員で2年間議論させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。では、自己紹介、どうもありがとうございました。

続きまして、本会の会長、副会長の選任に移らせていただきます。

こちらは今日添付が漏れており、大変失礼しました。子ども・若者・子育て会議条例第5条に会長に関する規定がございまして、委員の互選

により定めると規定をされております。

まず最初に、立候補される方を伺わせていただきたいと思うんですけども、どなたか会長に立候補される方はいらっしゃいますでしょうか。特にいらっしゃらないということでもよろしいでしょうか。

それでは、事務局といたしましては、昨年度までの子ども・子育て会議で会長を務めてくださいました大妻女子大学教授の加藤悦雄委員にお引き受けをいただきたく、御推薦をさせていただきたく存じますが、皆様、いかがでしょうか。

一同：拍手

寺西課長

ありがとうございます。それでは、御承認をいただいたということで、加藤委員に本会の会長に御就任をいただくとともに、加藤会長から御挨拶をお願いいたします。

加藤会長

改めて、加藤悦雄と申しますが、どうぞよろしくをお願いいたします。前期の昨年度までの子ども・子育て会議では、世田谷区の子ども政策、20年以上にわたってかなり力を入れて取り組んでこられていますが、節目となる時期だったというふうに思っています。先ほど部長からもお話がありましたように、子ども・若者総合計画の策定と、子ども条例を改正しまして、子どもの権利条例ということで新たに今年度からスタートしています。ただ、今期は計画の中身、条例の中身を実行に移していくということで、やはりこの計画ですとか条例を実行に移していく局面というのは、子どもたちの置かれた状況とか環境を改善していく大変重要な役割をこの会議は担っていると思っています。この会議が有意義な対話と適切な判断、決定が行われる場になっていくように努力していきたいと思しますので、ぜひ皆様方の御協力をよろしくをお願いいたします。

寺西課長

加藤会長、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、副会長の選任でございますが、条例の第5条第3項に「副会長は、会長の指名する委員をもって充てる」との規定がございます。加藤会長から御推薦をいただけますでしょうか。

加藤会長

会長より指名することですので、会長職務代理者となる副会長について御指名させていただきます。私としましては、昨年度まで子ども・子育て会議の副会長をお引き受けいただいていた久保田委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

一同：拍手

寺西課長 ありがとうございます。それでは、久保田委員に副会長に就任をいただくとともに、久保田副会長からも御挨拶をお願いいたします。

久保田副会長 改めまして、副会長を仰せつかりました日本大学社会福祉学科の久保田と申します。よろしくをお願いいたします。

私も昨年度までの子ども・子育て会議の中での権利条例の制定とか、計画の制定に関わらせていただいて、加藤会長が今おっしゃられたように、まさにそれをこれから実行していくということで、昨年度の議論の中でも、できて終わりではないよということを私自身もさんざんこの子ども・子育て会議の中で言ってきましたので、まさにそれをやっていくというところで、今回、子ども・青少年協議会と合体をして、これだけの大きな組織というか、多様なメンバーがそろいましたので、ぜひまたこの会議の中でいろいろな議論をしていながら、世田谷区の子どもさんたちにとって少しでもいい環境がつかれるように尽力していきたいと思っておりますので、2年間ということですが、よろしくをお願いいたします。

寺西課長 久保田副会長、どうもありがとうございます。

以上で会長、副会長の選任を終わります。

それでは、加藤会長、久保田副会長には席を移動いただきまして、今後の議事につきましては加藤会長からお願いをできればと思います。それでは、加藤会長、よろしくをお願いいたします。

加藤会長 それでは、早速議事に入りたいと思います。

まず、本日は議事は1つになりますけれども、議事(1)世田谷区子ども・若者・子育て会議の開催および部会の設置についてということで、今回設置されるこの会議の概要と部会の設置についての提案もありますので、事務局より説明をお願いいたします。

寺西課長 それでは、引き続き子ども・若者支援課長より、議事(1)世田谷区子ども・若者・子育て会議の開催および部会の設置について御説明をさせていただきます。

お手元の資料1を御覧ください。まず、1の主旨でございます。先ほど来お話が出ておりますけれども、昨年度まで、個別事業や計画全体の進捗管理や評価、検証につきましては、子ども・子育て施策は子ども・子育て会議、若者施策は子ども・青少年協議会で議論を行ってまいりました。しかしながら、子ども、若者、子育て家庭が抱える困難は複雑、かつ多様化しており、特に虐待や不登校、貧困等の困難が子ども期だけで解消はされず、その後も引き継がれ、若者期の成長に影響を及ぼし、

特有の課題として顕在化していることから、妊娠期から乳幼児期、学童期、思春期、若者期の支援を切れ目なく議論する必要があるということで、今年度からは、子ども・若者総合計画の初年度に合わせて、子ども・子育て会議と子ども・青少年協議会を統合しまして子ども・若者・子育て会議を設置することとしております。その上で、今後、より集中的な議論を行うために、この会に子ども・子育て部会と若者部会の2つの部会を設置させていただきたいと思っております。

2の子ども・若者・子育て会議の役割でございます。こちらの会全体の役割ということになります。(1)昨年度までの子ども・子育て会議、子ども・青少年協議会の役割、こちらは下の囲みのところで、1ページと2ページにわたってそれぞれ会議体の役割を記載させていただいておりますが、こちらを引き継ぐとともに、新たな保育・幼児教育施設、事業の開設等に伴い、区が確認を行うに当たって、利用定員の設定に関して、支援事業計画の確保の内容と照らし、計画に沿って進めているかを確認していただくというものでございます。こちらの支援事業計画というのは添付していますので、後ほど御覧いただければと思うんですが、概要版の31ページ、32ページにございまして、各保育園ですとか幼稚園の施設の需要量と確保量を数値で示した計画となっております。

続いて、(2)子ども・若者総合計画、また、この計画に内包する関連計画も含みますけれども、こちらの策定や見直しに当たりまして、計画の内容について御議論をいただくということになっております。

(3)子ども・若者総合計画(第3期)に基づく施策、事業の評価、検証等につきまして、地域団体や支援施設、当事者である若者世代の委員等の参加のもと、妊娠期から若者期まで切れ目なく議論をいただくということがこちらの会の役割となっております。

資料の2ページ目を御覧ください。3の部会の設置が本日お諮りさせていただきたい内容となります。子ども・若者・子育て会議本会の下に2つの部会を設置し、より集中的に議論を行っていききたいというものでございます。(1)設置する部会でございます。まず、①子ども・子育て部会は、年3回程度、主に子ども・子育て支援事業計画に基づく施策の評価、検証を行わせていただきたいと思いますと思っております。②若者部会も年3回程度、主に若者に係る施策の評価、検証を行わせていただきたいと思いますと思っております。(2)各部会の委員でございます。こちらは会長の指名する委員をもって組織をできればと思っております。なお、部会委員でない本会委員の方におかれましても、オブザーバーとして部会に御参加いただくことはできると思っております。(3)各部会の開催でございます。

こちらは子ども・若者・子育て会議の開催日程の合間に開催するという
ことで、こちらの本会は公開で行っておりますけれども、部会について
は非公開での開催を行うということで考えております。

御説明は以上でございます。

加藤会長

今日からスタートする世田谷区子ども・若者・子育て会議という会議
体ですけれども、こういう会議体を設置して、子ども政策、若者政策、
子育て支援政策について議論していくというのは、恐らく全国の自治体
でも初めてではないかと思っています。前期までは子ども・子育て会議
と子ども・青少年協議会でそれぞれ役割分担をしながら議論を進めてき
ましたけれども、それらを統合して、さらに政策の議論ですとか評価の
議論を進めていければと思っています。

ただいま事務局より、この会議体の部会として、子ども・子育て部会
と若者部会、この2つの部会の設置について提案がありました。それぞ
れの部会の委員の選任については質疑の後に行いたいと思います。

まず、議事(1)世田谷区子ども・若者・子育て会議の開催および部会の
設置について意見、御質問などがありましたらお願いいたします。人数
が多いので、御意見のある方はぜひ挙手をしていただければと思いま
す。本当に初めての会議の設置ということになりますので、どんなこと
でも構いませんが、いかがですか。

委員

世田谷区は重層的支援体制整備事業でしたか、その自治体になってい
ると思うんですけれども、そことの関係みたいなものは、この部会設置
とセットで、向こうは地域保健福祉審議会だと思うんですけれども、お
示しいただいていいですか。

加藤会長

重層的支援体制整備事業ということで、あちらも世田谷区でかなり全
体的なことを議論していく場になっていますが、子どもについても議論
していくことになっていると思いますが、そちらの会議体とこちらとの
関係についてですが、事務局から御説明をお願いできますか。

寺西課長

御質問ありがとうございます。おっしゃるとおり、重層の会議がそれ
はそれで開催しております、今回は子ども・若者・子育て会議という
ところで、会議体は別になります。重層のほうは子どもだけではなくて、
複合的な課題についての議論がメインになっているかと思っております、
例えばこちらの会議でそういう課題があった際に、重層のほうにも情報
提供をしたりといったこともあろうかとは思っています。

こちらは主に子ども、若者、子育て、こちらもちろん複合的な課題
がないわけではないんですけれども、メインとしては、そういった課題
についてはこちらで議論して、より複合的な、それこそ本当に重層的な

支援が必要な課題についてはそちらのほうで議論するというような形になろうかと思えます。

加藤会長

ほかにはいかがでしょうか。確認しておきたいこととかございますか。

では、また何かございましたら遡って質問していただいても大丈夫です。ですので、それでは、取りあえず、議事(1)の質疑については以上とさせていただきます。

続きまして、もう一つ、提案のあった各部会の設置について、まず御異議はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。2つの部会を設置して、そちらでも集中的に審議をしていくということになります。

それでは、子ども・子育て部会と若者部会について、この後、部会委員の選出を進めていきたいと思えます。先ほどの委員名簿を出していただければと思えます。会長が指名する者を部会委員にするということで、まず学識経験者の枠組みのメンバーから、私も含めて各部会それぞれ3名程度、そして、事業者や団体、さらには区民委員の皆さんからもそれぞれ数名程度お願いしたいと考えております。なお、区議会議員の皆様におかれましては、必要な際にはオブザーバーとしての御参加をお願いできればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、子ども・子育て部会のほうから進めていきたいと思えますが、学識経験者枠から、〇〇委員、さらに〇〇委員をお願いし、私も入りまして3名、そして、事業者、団体の皆さんからは、〇〇委員、〇〇委員、さらに〇〇委員、〇〇委員の4名ということでお願いできればと思っております。

それで区民委員、公募委員の皆様からは1、2名程度、子ども・子育て部会のほうをお願いできないかと思っております、もしお引き受けいただける方は挙手をいただけますでしょうか。

[〇〇委員挙手]

加藤会長

〇〇委員、子ども・子育て部会ということで、よろしく願いいたします。

ほかにはいかがでしょうか。それでは、〇〇委員、お引き受けくださりましてありがとうございます。子ども・子育て部会に関しては以上のメンバーとさせていただきますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

続きまして、もう一つの若者部会になります。最初に、名簿の学識経験者枠からですけれども、〇〇委員、本日、欠席していますが〇〇委員、

〇〇委員にお願いして3名ということで、続きまして、事業者、団体、行政機関の皆さんから、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員の3名ということでお願いできればと思います。区民委員や公募委員等の皆様からは1、2名程度お願いできないかと思っておりますけれども、お引き受けいただける方は挙手をお願いしたいと思います、いかがですか。

[〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員挙手]

加藤会長

それでは、今、挙手いただいた〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員にお引き受けいただきまして、ありがとうございます。

それでは、若者部会は以上のメンバーとさせていただきますが、よろしいですか。やっぱり入りたいとかという方は大丈夫ですか。

それでは、部会長に関しては、子ども・若者・子育て会議の会長が指名する委員をもって充てるというふうにありますので、子ども・子育て部会の部会長は私のほうで務めさせていただきます、若者部会の部会長は〇〇委員をお願いしたいと思っております。よろしくお願ひします。

それでは、以上のメンバーを中心にしまして、それぞれの部会での議論を進めていきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願ひいたします。

なお、本日、御欠席の委員につきましては、後日改めて御希望を伺いたいと考えております。また、部会委員でなくてもオブザーバーとして部会は参加可能としておりますので、部会の日程等につきましては事務局からお知らせしますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、審議事項は以上となります。どうもありがとうございます。

続きまして、報告案件に入りたいと思います。

報告事項の(1)、資料は資料2になりますけれども、改正「世田谷区子どもの権利条例」の施行及び「世田谷区子ども・若者総合計画（第3期）」の策定について、事務局より御報告をお願いいたします。

寺西課長

それでは、子ども・若者支援課長より御報告をさせていただきます。資料ですけれども、こちらの概要版をお手元に配付していると思ひます。こちらを使って御説明をさせていただければと思います。

それでは、計画と条例の御説明となります。世田谷区では、昨年度、様々な御意見をいただきまして、子ども、若者とともに議論、検討を進めまして、今年の4月から世田谷区子どもの権利条例と世田谷区子ども・若者総合計画（第3期）を新たにスタートしてございます。

まず最初に、条例の御説明をさせていただければと思います。概要版

の後半部分になるのですけれども、35ページをお開きいただければと思います。

まず、条例の趣旨でございます。区は平成13年12月に23区で初めて制定しました世田谷区子ども条例を一部改正しまして、世田谷区子どもの権利条例を令和7年4月に施行いたしました。この条例によりまして、子どもの権利が当たり前に保障され、子ども自身が子どもの権利を実感できる文化と地域社会をつくり出し、発展させ、継承していくことを目指してまいります。

続いて、36ページを御覧ください。改正のポイントが3つございます。まず1つ目が子どもの権利を条例の中に具体的に明記しております。国連の子どもの権利条約に規定された4つの一般原則の権利を引用したほか、子どもたちが検討を行い、特に重要と考えた権利を規定しております。2つ目が子どもの声を反映し思いを込めてございます。子どもたちが条例を自分のものとして受け止め、自分たちの条例として生かせるように、条例前文などに子どもの思いや大人へのメッセージを反映しております。3つ目でございます。子どもの権利の保障状況を評価・検証する第三者機関を設置いたします。区が実施する施策等において子どもの権利が適切に保障されているかを評価、検証する第三者機関を設置することを規定しております。こちらは今年秋頃をめどに子どもの権利委員会という名称で設置を予定しております。

続きまして、37ページを御覧ください。こちらは昨年度の条例の検討プロジェクトでございます。こちらの子ども条例検討プロジェクトにおきまして、子どもたちの思いを条例に反映したことを記載しております。前期検討会と後期検討会を合計7回実施いたしまして、延べ33人の子どもたちに御参加をいただいて条文の検討を行いました。

続いて、38ページを御覧ください。こちらは条例の構成でございます。右のほうに緑で子どもの意見反映というところがございますけれども、先ほどの子ども条例検討プロジェクトの意見を反映した前文とするとともに、第2章では子どもの権利を具体的に明記しております。

39ページから46ページにかけて、条例各所の概要説明と条例前文を掲載しておりますので、お時間のあるときに御覧いただければと思います。

参考までに42ページを御覧いただければと思うんですけれども、こちらが条例の本文となっております。先ほど御紹介した子どもの意見を反映した前文というのが子どもの意見表明、1、子どもの思いですか、2の大人へのメッセージとなります。それを受けて、右側のほうに区や

大人の決意表明といったことを条例に掲載している形となります。

また、43ページ、第2章子どもの権利ということで、第4条には国民の権利条約に定める4つの原則なんですけれども、第5条から第9条まで、子どもたちと検討して、これが大切だという権利を定めております。例えば第6条を御覧いただきますと、第3号、(3)となっているところに「思い切り遊び、自分にとって楽しいことをする権利」、(5)には「心や身体が疲れた時に休息することができる権利」など、ちょっとリアルといますか、今の子どもたちの思いを反映した権利がこういった形で規定をさせていただいております。

続きまして、計画の説明に移らせていただきます。資料に戻っていただきまして、2ページを御覧ください。まず、計画の策定の趣旨・計画期間ですけれども、妊娠期から乳幼児期、学童期、思春期、若者期まで切れ目なく総合的に施策を展開していくという考えのもと、これまで子ども計画という名称でしたけれども、子ども・若者総合計画に名称を変更し、策定いたしました。計画期間は、これまでと同様に令和7年度から令和16年度までの10年間で、策定後も随時必要な見直しを行ってまいります。

続いて、3ページを御覧ください。こちらは計画の推進体制でございます。先ほど来お話が出ております子ども・子育て会議と子ども・青少年協議会を統合して、今回の子ども・若者・子育て会議といったものを設置しております。また、先ほど少し御説明しました子どもの権利保障に向けた区の施策の評価、検証ということで子どもの権利委員会を設置することも計画に定めております。

少し飛びますけれども、13ページを御覧ください。第3章の基本方針でございます。少し長いので、かいつまんで御説明をさせていただきます。3段落目になりますけれども、この条例、計画の検討過程で子どもたちの声を聞く中で、子ども自身が遊んだり、学んだり、自分のしたいように過ごしたいと思ってもなかなかその時間を持つことができないぐらい忙しい状況になっているという実態が見えてまいりました。この状況については、子どもやその周囲だけの責任ではなく、区を含めた地域社会の責任として捉え、地域社会全体で共に支えあうということを明確にしております。少子化という大人が多い現代において、これまでの子ども、若者への地域社会の関わり方を変え、子どもも、若者も、大人も年齢や経験にかかわらず、人として対等であり、互いに尊重され、対話の中で互いを理解し、共に成長していける地域社会を実現すること、つまり、子どもの権利が保障されるまちを文化として築いていくという

ことを基本方針で規定してございます。

続いて、14ページを御覧ください。めざすまちの姿ということで、こちらは子どもたちが考えた子どもの権利条例の目標でございます。「一人ひとりが 笑顔で 自分らしくチャレンジできるまち」ということになっております。計画の目標ですけれども、その下を御覧ください。「子どもが権利の主体として、一人ひとりの健やかな育ちが保障され、子ども・若者が、自分らしく幸せ（ウェルビーイング）な今を生き、明日からもよい日と思える社会を実現する」を計画の目標としてございます。

続いて、15ページを御覧ください。こちらは本計画における4つの原則を定めて、この原則に基づいて政策及び施策を実施してまいります。

続いて、17ページを御覧ください。4章政策の柱でございます。子ども、若者の育ちと成長、子育てを子ども、若者や保護者だけの責任とはせず、地域社会全体で推進していくことを主眼に、この7つの政策の柱を定めております。7つの政策の柱につきましては、19ページ以降に詳細を記載してございます。

少し割愛をさせていただきますが、30ページからは第5章計画の内容、31ページから第6章、先ほどちょっと話に出ました子ども・子育て支援事業計画、それから、33ページからは第7章子どもの貧困対策計画を記載しております。

簡単ですけれども、説明は以上でございます。

加藤会長

新しい条例と計画の内容について御説明いただきました。この会議の場というのは、子どもや若者や子育て支援に関する政策を主に議論していく場ということになります。政策ということになりますと、援助とか支援の場ですと、一人一人の子どもたち、顔の見える子どもたちとどう向き合っていくのかなどというところが大事になっていきますが、政策の場ですと、かなり不特定多数の子どもたちにとって影響するような子ども施策とか事業について議論していくということになります。そのため、この場での決定は影響力が大変高いわけですけれども、今御説明いただきました条例は、世田谷区の子ども、若者、子育て支援に関する基本的な方針ですとか、さらには、古い条例は理念条例ということで、考え方を中心にまとめられていましたけれども、今回の新しく改正された子どもの権利条例は、先ほどの資料の42ページから実際に本文が示されていますけれども、前文として子どもの思いが示されまして、その後、権利とは一体何かといったことが示されていて、その後、権利を実現するための様々な具体的な施策が示されている内容になっています。また、子ども・若者総合計画につきましても、この条例に基づいて、実際

に本当に様々な事業があるわけですけれども、それらをどう具体化していくのか、どんなことを大切にしながら具体化し、それをよりよいものにしていくためにどう評価していくのかといったことがかなり詳細にまとめられたものとなっています。

時間はまだちょっとありますので、今御説明いただきました条例と計画の中身について、特にこの条例については、ここにいらっしゃる委員の皆様で、条例をつくり上げる議論に加わってくださった方々も多く含まれておりますし、若者委員の皆さんは、この条例づくりに若者の意見、子どもの意見を反映させていくということで数多くの意見を出していただいたり、議論して、この条例に具体的にたくさんの若者の意見を反映させていただきましたので、そういった観点からでも構いませんけれども、御意見とか御質問がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

委員

子どもの権利条例とか子ども・若者総合計画については、区議会でも様々な議論をしてきたところであります。先ほど加藤会長も、久保田副会長も、この条例や計画を実行に移していく、これをつくって終わりではなくて、きちんと浸透させていくことが大事だと思っているというふうにおっしゃってくださいました。我々区議会のほうでもそのようなことを伝えておまして、私からもそういった意見をずっと述べていただいております。

浸透させていくという点で意見なんですけれども、子どもの権利条例について、若者総合計画について、この小さいパンフレットを作ってくださいっていると思います。私は子どもが2人いまして、上の子は小学生なんですけれども、今、小学2年生の子がこれを持ち帰ってきて、ちゃんと学校で配られているんだということでよかったなと思っていたんですけれども、小学校2年生は見ても分からないというか、やっぱり難しい内容だなと思ひまして、また、保護者の立場からいっても、これを持ち帰ってきて、子どもの荷物の中に紛れていたりすると、やっぱりこれをぱっと見ただけでは、そんなに読み込む方もいないかもしれない、読む方ももちろんいらっしゃるかもしれないですけれども、読み込む方も少ないかもしれないと思ひました。

この内容自体は、もりもり盛り込んでくださって、すごく思いのこもったパンフレットにはなっていると思うんですけれども、やはりきちんと説明していくとか、話していく場がないと難しいのかなと考えています。

権利という言葉自体がすごく難しい言葉なので、小さい子たちにはど

う伝えていくのかとか、年齢に応じて改めて伝えていくための仕組みをつくらなければいけないかと思っております、その点は、子ども・若者部が考えるだけではなくて、教育委員会とか様々なところと連携をしていく必要があると思うので、もちろん、配ってくださったこと自体はいいことだと思うんですけども、さらに一歩進んでいくというのをこれからぜひ考えていただきたいと思ひまして、意見を述べさせていただきます。

加藤会長

貴重な御意見ありがとうございます。やはり当事者である子どもたちが権利というものがあることをまず知って、その中身を理解して、最終的には、子どもたちがここに書いてある権利を経験しながら生きていけるような状態に持っていきたいということがあるわけですが、この権利を子どもたち一人一人にどう伝えていくのかということが大変問われているわけですが、委員の皆様から、こんな取組が進められるといいのではないかみたいな意見もしあればお願いしたいと思ひます。

委員

私は青少年地区委員会にいますので、ぜひ子どもの権利条例を地区委員会の研修で取り入れていきたいと思ひます。地区委員会は世田谷区内に28あると思ひますけれども、そこでやれば地域の方にはある程度周知できるのではないかなと思ひます。世小P、小学校の単P研修ですとか、家庭教育学級、そういうところで研修をなさったらいいいのではないかなと私は今思ひました。世中Pもありますけれども、以上です。

加藤会長

この会議に関わっていらっしゃる方々は、様々な子どもたちの生活している、学んでいる現場の要になる方々がたくさん加わっておられますので、ぜひ進めていただけるとありがたいと思ひます。ありがとうございます。

久保田副会長

久保田から少し御提案というか、御質問も含めてなんですけれども、私が所属しています日本大学の文理学部の隣の隣ぐらいに緑丘中学校がございます。緑丘中学校とは、学校運営委員会に我々が入ったりとか、評価委員会にも私たちが入っているという関係もあって、ちょうど先日、校長先生からお話があって、教育委員会のほうから、それこそ、ちゃんとこれを配れよという話とか、子どもの権利について学校の中で話すようにというような話があったということで、たまたま私が緑丘中に関わっていることもあったので、校長先生の依頼でちょっと時間をつくって、中学校の全生徒向けに私から子どもの権利について話してくれということで依頼を受けまして、ちょうど今日もいますけれども、〇〇委員もうちの大学の学生なので、〇〇委員も連れていって、あと去年の若者

委員だった学生も連れて行って3人で全校生徒の前で50分程度、子どもの権利についてお話をさせていただくという機会がありました。

その中で中学生全員に子どもの権利を知っている？ とか、あと、今まであった子ども条例を知っている？ と言っても、やはり2、3人しか手を挙げないという状況で、さすがにせたホッとはいろいろ配っていただいていることもあっていっぱい手を上げてくれましたけれども、せたホッとだけ知っていてもねということもあって、やはり小中学校に子どもの権利というのがなかなか浸透していないんだなとすごく感じました。緑丘中学校に関しては、たまたま私が関わっていたこともあってお声がけさせていただいてということで実現しましたけれども、やっぱりああいう取組をもっといろんな場所、いろんな小学校、中学校の中でやっていくことが必要なかと思しますので、教育委員会でもそのあたりをぜひ進めていただければなと思っております。

もう1点、これは教育委員会にお聞きしたいんですけども、先ほどちょっとお話しした学校運営委員会とか学校評価委員会に関して、中学校で次年度から変えていくというようなお話を聞いております。

緑丘中学校からは、私たちは言われているだけでよく分からない、教育委員会が考えていることなんですということでおっしゃられていたんですけども、やはりその中で、これは本当に私の個人的な意見ですが、学校運営委員会と評価委員会が合体して、もっと地域に根差していこうというふうに進められているということでそれはすごくいいかなと思うんですけども、やはり子ども・若者総合計画の中でも、子どもの学校生活での意見表明だとか、生徒会サミットみたいな話が出ているので、私個人としては、ぜひ学校運営委員会とか評価委員会の中に子どもたちも入るといって形を目指していただきたいと思っています。恐らく学校運営委員会とか評価委員会は、子どもたちの全然知らないところで今行われている状況だと思いますので、今後そういうところにも参加していくということがやはり望ましいのかなと思うので、これは一意見として検討していただければと思っていますところ。以上です。

加藤会長

今、久保田副会長から大きく2つ御意見がございまして、教育委員会からも後で御回答いただきたいと思いますが、今お話しがあった若者委員の皆様から、条例の24条には普及啓発ということが示されていて、区や大人はこの条例を普及啓発していく責任があるということがしっかりと明記されているわけですが、この条例を議論していく過程でどんなふうにしたら子どもの権利を子どもたちに伝えていけるんだろうみたいなことで議論された内容とかがもしあったら、あまり指

すのはよくないかもしれないですけども、若者委員とか公募区民委員の皆様から、いかがですか。

委員

僕自身は条例作成に携わったわけではないんですけども、先ほど出された問いに対して自分の意見を述べたいと思っています。

1つ、〇〇さんがおっしゃったように、僕もこのパンフレットを見たときにあまり入ってこなかったというのが事実としてあって、ただ、この権利条例の一番の価値というのは、積み上がりがいろいろあって、ストーリーがあって今ここに至っているというのが価値だと思うんですけども、そこがいまいち見えてこないというのが課題なのかなと捉えました。

そうなったときに、僕は先月、インドネシアに行っていて、インドネシアの原住民の歴史をどう国民に伝えていくかみたいな取組を今やっていて、その取組の一環として使われていたのが漫画なんです。なので、ストーリーを伝えていくというので、チラシで伝えていくのもいいと思うんですけども、例えばそういうふうなストーリーを伝えていく手段として、AIとかを使って漫画を作るとか、一つの手段でしかないんですけども、そういうのをやってみるのは価値としてはあるのかなと思いました。あとは、やっぱり子どもたちが入ってくる情報は、文字とかこういう媒体だとなかなか難しいと思うので、そういうのをうまく議論しながら試行錯誤を重ねていくというのがどちらにしろ必要なのかなと感じています。以上です。

加藤会長

子どもたちの経験に基づくストーリーとして伝えていくことができると、あるいは漫画なんかを媒体として用いていくことができるとかなり伝わるのではないかとということで、ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

委員

7月に四者協というものが開催されます。四者協は児童相談所、子ども家庭支援センター、学校、それから民生児童委員の者が集まって話し合いをするんですけども、その中で、今回のテーマとして世田谷区子ども・若者総合計画と社会的養育推進計画について御説明をしていただきます。世田谷区内には民生児童委員が約600名以上いますので、その方々が地域に散らばっております。まずはそういう地域の方々が知っていただくということも重要ではないかと思って、今回テーマとして挙げさせていただきました。

その中で、今回の講演会はユーチューブに上げて、民生児童委員が四者協に全員参加できるわけではないので、参加できなかった民生児童委員にも後ほど見ていただくということをしていただく計画にしております。

ますので、ぜひ講演の内容が民生児童委員の皆様にとって勉強になるものになるといいなと考えております。そのようにして私たちは取り組んでいきたいと思っております。

加藤会長

本当に地域社会の要として民生児童委員の皆様が活躍されていますので、ぜひ地域に広げていく要としてお願いしたいと思います。

委員

うちの子どもたちは小学生と保育園児で、保育園児はさすがにこれは読まないんですけども、先ほど〇〇委員がおっしゃっていたように、小学校もこれが配られていました。すごくいいと思うんですけども、具体的にこれを読んだときに、多分、中学生はこれを見て分かりますし、大人も分かるし、こういうQRコードとかすごくいいと思うんですけども、小学生はスマホを持っていないのでQRコードは読まないですし、権利があるよと言われても、毎日の生活の中で、例えば学校の中だったりとか、道路を歩いているとき、自転車で走っているときとか分からないですけども、そういうときに、自分らしくいられ個性が尊重される権利とか、様々なことに挑戦して失敗できる権利とかって、では、何をされるのかというのがあまり分からないのではないかなと思いました。

では、どうするかという話なんですけれども、これは教育に関わってしまうのでまた別かもしれませんが、最近小学校は道徳の時間があって、かなり丁寧にストーリーとかをつくって、道徳の授業とか、このときにどうしたらよかったですよとか、子どもたちは結構考えたりしているというか、させられているという時間があるので、例えばそういう時間に、この中でいうとどのストーリーが当てはまるか分からないですけども、こういうことがあったときにこう主張すればいいんだよとか、大人はこういうふうに対応するよみたいな、具体的に、あっ、こういうことなんだと理解できるような時間があると少しイメージがつくのかなと思いました。学校では当たり前というか、先生の話はちゃんと聞こうというのが基本的な姿勢になっているので、では、何か自分の意見を受け止めてもらうってどういうことなのかというのはなかなか実感が湧かないのかなと思っております。

加藤会長

このミニパンフレットに関しては、一体権利とは何なんだろうということの本質的な部分がまとめられていて、多分こういうパンフレットも全国的にも本当に初めてというか、かなり工夫されて作られていると思いますけれども、この権利とは何だろうということが明確に示されていて、ここを入り口にして、さらに子どもたちの身近なものとなるためにどうすればいいのかということで、先ほどの副会長の話と同じように、

子どもたちに影響力の大きい学校という場を活用していく必要性という
ことを御提案いただきました。ありがとうございます。

ほかにはいかがですか。

委員

内容というよりも、皆様の意見を聞いて、なるほどと思いながら伺っ
ていました。パンフレットに関してですが、QRコードがいろいろあっ
て、一番最初の表紙のこれもQRコードですか、これは違うんですね。
これは何だろうと気になってしまったのと、あともう一つ、ここの裏の
正解はこちらというところをさっきチェックしたんですけども、すぐ
に正解のページに行き着いていないような、どこに正解があるのみたい
な、そういうちょっとしたことでも、せっかく作ったのに何これみたい
な気がしたんですけども、私だけが見つからないのか、説明をお願い
したいと思います。

寺西課長

表紙のこのコードについては、説明がなくて申し訳なかったです。音
声コードでして、視覚障害のある方がこれで音声で聞き取れるというも
のになります。

答えの部分が、そのページの中にたしか書いてあったと思うんですけ
れども、すぐにぱっと出る形には今になっていない、スクロールしないと
出てこないような形になっているので、御意見をいただいたので、分か
りやすいように改めたいと思います。ありがとうございます。

1点、補足をさせていただいてもよろしいでしょうか。先ほど来、学
校との連携ということで、確かにそのとおりだと思っております、一
応、今年、子ども・若者支援課から学校のほうに権利学習の時間を設け
ていただきたいというお願いをしております。具体的には朝会ですと
か、全校集会みたいところで、担任の先生ないしは学校の校長先生か
ら、子どもの権利とは何なのかというのをすごくかみ砕いた形でお話を
していただきたいと御依頼をさせてもらってしまして、一応6月ぐら
いにそれをやってくださいとお願いをして、今その実施の結果をいただく
ような形をお願いをしております。その資料の内容については、小学校
低学年向け、中学年向け、高学年向け、それから中学生向けということ
で、年代に応じたものを4パターンつくって、朝会などで担任の先生な
どからお話をいただくということで御依頼をしたところです。まだその
結果などは出ていないんですけども、それについても、こういった反
応があったよとかありましたら次回報告できればと思います。以上で
す。

委員

子どもたちに広めていくということも大事なんですけども、まずは大
人たちにも、こういった内容のものができましたとか、今はこうですよ

じゃないですけども、やはり昭和の人間からすると子どもの権利は制限されてきたものですから、制限してきた側の大人がまず意識を変えて、子どもたちの権利をこういうふうを守っていこう、尊重していこうというような土台をつくって、その中で子どもたちが様々な権利を主張できるという形を整えていくのが必要ではないかと思いました。以上です。

加藤会長

やはり子どもの権利を実行していくためには大人の責任というか、大人の義務があるということで、やっぱりそこはかなり力を入れていく必要があるのではないかと、ありがとうございます。

それでは、続いて、〇〇委員、お願いします。

委員

先ほど来、小さな子どもたちにはなかなか伝わりにくいのではないかと、という指摘がございますけれども、やはり私もこれを読んでいると、どうしてもすっと入ってくるのは難しいなと感じます。どうしても具体的ないろんな議論を積み重ねる上で抽象度の高い言葉で語られているので、子ども、とりわけ小さな子どもたちは一つ一つの身近な具体的な体験によって物事を理解していくという順序から考えると、これは逆なんですよね。だから、具体的な体験があって、子どもの権利条例の内容一つ一つはどう具体化しているのかを示せるとよいと思います。これがあるから世田谷区ではこれができるんだよとか、こういう場所があるんだよ、こういうふうにごさすことができるんだよ、こんなふうに大事にされているんだよというのを具体的な例として幾つか示しておくことは必要かなと思いました。

例えばこちらの子ども・若者総合計画の概要版の20ページには、世田谷区における子ども・若者の参加・参画の全体像というのが1枚で分かるようになっていまして、その中に例えば児童館とか青少年交流センターがどんな子どもたちでも居場所として自分らしくいられる、安心安全でいられる場を実際には提供していますし、私も職員さんたちにアンケートを取らせていただいたことがあるんですが、皆さん、そこら辺のところをすごく意識して取り組んでいらっしゃるということがよく分かったので、やはりその辺の具体的な場があったり、関わりがあったりというのを子どもたちに例としていろいろと見せてあげられるような工夫も必要かなと思いました。以上です。

加藤会長

本当に具体的な子どもたちの生活の場に根差した、そういった形で伝えていけるようなことが大事かと思います。

徐々に時間がなくなってきつつあるんですが、続いて、〇〇委員。

委員

今、〇〇委員がおっしゃってくださったことはまさになんですけれど

も、権利の勉強の時間とか、そういうこともすごく大事なんですけども、実体験があるといいなと思っていて、世田谷のいろんな団体の人たちに協力していただいて、中学校に赤ちゃんを連れていく授業をさせていただいています。全ての学校ではないんですけども、中3の家庭科を中心に触れ合い体験をやっていて、そのときには、赤ちゃんに触るときには必ず抱っこをするよと声をかけましょうと。それは同意を得るということで、これは一生涯ですということを伝えているんですね。これは全部の授業で、いろんな体験をやらせてもらっているんですが、必ず言っていたらいい、セリフにビルトインしているので、そこで聞く機会があります。

もう一つは、両親学級という、昔、母親学級だったものなんですけれども、そちらでも年間120回近くやっているんですけども、新しく赤ちゃんを迎えられる御夫婦、両親でいらっしゃる方も多いんですけども、親になられる方にも、赤ちゃんを抱っこする入り口のところとして同意を得るといってお話をさせていただいて、権利の説明はしていないんですけども、これは子どもの権利ですという話をさせていただいて、多分そういう取組一個一個に小さくビルトインするというのがすごくいいのではないかと思いますし、そう扱われた人は大切にできるということを赤ちゃんのときからできるといいなと感じています。

加藤会長

親であったり、子どもが権利を経験して、あっ、それがここに書いてある権利の、これがまさにそれなんだなというふうに明記されていることを同時並行で経験したり、学んでいくことが本当に大事なと今御報告を聞いて思いました。ありがとうございます。今後、子どもの権利学習をどんなふうに進めていくのかみたいなこともこの会議の場で御報告いただけるということで見守って、あるいは皆様、それぞれの現場で子どもの権利の普及啓発のほうもよろしく願いできればと思います。

それでは、本件については以上とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

次に、報告事項の(2)、資料3になりますが、令和7年度保育待機児童等の状況について、事務局より御説明をお願いいたします。

北川課長

保育課長の北川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私から、資料3、令和7年度保育待機児童等の状況について御説明をさせていただきます。こちらは5月23日の区議会の子ども・若者施策推進特別委員会で御報告したものとなっております。

1の主旨でございますけれども、区では令和7年4月入園に向けまし

て、入園の1次選考の非内定者数の多い地域及び年齢を中心に、2次選考に向けたさらなる保育待機児童対策を実施してきましたけれども、保育需給の地域偏在等もありまして保育待機児童が生じたため、今後の取組とともに御報告をしているものでございます。

2の保育待機児童の状況ですけれども、区内保育施設等の定員数、施設数を記載したのとなっておりまして、網かけ部分が前年度との増減となっております。定員数につきましては全体でプラスの22人、施設数につきましてはマイナスの2というふうとなっております。

次に、3の保育待機児童算出の内訳でございます。①の認可保育園等に入園できなかった児童1326人、こちらの人数から、②から⑫までの要件に当てはまる児童を差し引いた数が待機児童数となっております、一番下になりますけれども、令和7年度は47人ということで昨年度より11人マイナスとなっております。増減の中で一番大きいのが②のところですが、こちらは入園申込みの時点で育児休業の延長も許容できるを選択した世帯数になりますけれども、こちらが106人の減となっております。

次に、2ページを御覧ください。4の保育事業・施設の定員数、施設数と保育待機児童数の推移となっております。こちらは後ほど御確認いただければと思います。

続きまして、5の保育待機児童数の地域別・年齢別内訳になります。左側は令和6年度ですけれども、1歳児で砧地域、烏山地域で合計39人、2歳児で烏山地域で19人の合計58人となっておりますけれども、右に行っていただきまして、令和7年度、今年度につきましては、1歳児では、烏山地域を除く4地域の合計で43人、2歳児で烏山地域4人で合計47人の待機児童数となっております。

次に、3ページを御覧ください。6の保育を取り巻く現状ですけれども、(1)就学前人口の推移と今後の推計につきましては、ゼロ歳から5歳の就学前人口につきましては減少傾向が続いておりまして、区の将来人口推計におきましても今後も減少が見込まれているところでございます。(2)、一方で、入園申込者数の推移ですけれども、こちらは就学前人口が減少しておりますけれども、申込者数は前年と比べて150人の増加となっております。

次に、4ページを御覧ください。(3)入園申込率の推移です。こちらは区全域になりますけれども、上のほうは1歳児でプラスの2.2ポイント、下のほうで3歳児でプラス1.9%の増加となっている状況になります。

下の(4)欠員数の推移です。令和7年4月1日現在の区立保育園及び

私立保育園の欠員数の合計になりますけれども、一番右、1,113人となっております。一番多かった令和5年から比べますと減少傾向にあります。

次に、5ページを御覧ください。(5)保育待機児童の状況と傾向になります。1つ目、保育待機児童が生じた背景の一つとしまして、先ほど1ページのところで御説明いたしましたけれども、入園申込みの時点で育児休業の延長も許容できるを選択した世帯数が減少しているということが挙げられます。これは令和7年4月から保育所等に入れなかったことを理由とする育児休業給付金の支給対象期間延長手続の変更が行われたことによる影響があったものと想定しております。今後は他自治体の状況等を見ながら影響の度合いの分析を進めているところでございます。また、過去の実績や現在の社会状況を踏まえまして、保育の利用意向率が今後も増加することを見込んでおりましたけれども、地域によっては、さらに見込みよりも利用意向率が高まっている状況が見受けられております。そのため、利用意向率の動向の分析を現在行っているところでございます。最後に、令和7年4月入園の1次選考結果を踏まえまして、2次選考に向けたさらなる保育待機児童対策としまして、定員の弾力化や定期利用保育の実施に向けた調整を進めた結果、1歳児から3歳児で合計89名のプラスの定員の確保を行ってきたところでございます。一方で、保育人材の不足等により当初計画していた定員を確保できない状況も発生しているところでございます。

最後に、7、今後の取組みについてです。保育の需要量と確保量は、世田谷区子ども・若者総合計画（第3期）に内包します子ども・子育て支援事務計画において令和11年度までの見込みを示すとともに、状況の変化等を踏まえ、毎年見直しを実施するとしております。このたびの待機児童の状況を踏まえまして、現在、保育の需要量と確保量の再推計を行っていくところでございます。また、令和8年4月入園に向けましては、玉川地域に私立認可保育園2園の新規整備、それから砧地域における認可保育園への移行による定員拡充を予定しているところでございます。今後の再推計を踏まえまして、さらなる取組や、令和9年4月入園に向けた新規保育園の整備を含め、現在、対策を検討しているところでございます。また、令和7年4月入園に向けて緊急対策として取組を行っておりまして、既存保育施設の弾力化等による定員の拡充を図ったところでございますが、令和8年4月入園に向けて引き続き取組を継続してまいります。保育待機児童が新たに発生した世田谷地域や北沢地域も加えた区内全地域において区立保育園のさらなる定員の弾力化、それ

から私立保育園への定員の拡充を現在依頼しているところがございます。

最後に、統合に向けた定員調査を行う区立保育園におきましては、令和8年4月に向けて、職員体制を踏まえた上で、定期利用保育の拡充を図っていきたいと考えております。

御説明は以上となります。

加藤会長

保育所利用の申込みをしたんだけど、空きがないということで、すぐには入れませんということで生じた待機児童等の状況について御報告いただきました。5ページ目には、待機児が生じた3つの分析結果と、それらを踏まえた今後の対応方策について御説明いただきました。この件について御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。まず、〇〇委員からお願いします。

委員

この推移にも出ているんですけども、保育園が足りないです。私たちの相談の件数で、保育園に入れない、どうしようという相談が物すごく多いです。今、待機児童が47名出ていますが、これは4月の時点なので、転入者の方は全く入れない状況なのですね。なので、たくさんある、いろんな場所の中で世田谷を選んで転入してきてくださったり、世田谷を選んで住んでくださっているお子さんをお持ちの御家庭が今保育園に入れない状況で、転園もできなくて、1時間かけて元の住所のところの保育園に通っているという方もたくさんいらっしゃいます。

現状としては、私たちはもっと危機的な感覚を持っておりまして、また、第1子の無料化も始まることで、さらに希望が増えていくと考えられておりまして、こちらは早急に対応していただきたいと思っております。また、受皿となっている認証保育園が実際次々となくなっている状況で、どこにも入れないという方がすごく多いです。こうなったらいいねという話をコーディネーターの中でも話す中で、保活がない世の中になったらどんなにいいだろうねと。お母さんたちがそのことでおなかに赤ちゃんがいるときから、どこの保育園にしたらいいんでしょうか、いつどういうふうに動いたらいいんでしょうかと、そんなことばかり考えていることがなくなるといいねという話をよくするんですけども、ぜひ考えていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

加藤会長

現場の肌感覚とか、保護者の方々と接している感じだと、もっと深刻な状況が生じているのではないかとということと、あと、希望する方みんなが入れればいいんだけど、さらに入りやすくなる施策が今後出てきた中で、誰を優先させるのかとか、本当に難しい課題だと思います。

まず、質問を受けたいと思いますが、〇〇委員、続いてお願いします。

委員

今、〇〇委員がおっしゃったことと同じような危機感を私も持っております。相談いただくのは、やはり入れないけれどもどうしようとか、転入する方は、特にお子さんが2人いたりすると、また、3歳児と2歳児とか1歳児とかパターンによって入れない状況がそれぞれ変わってくるので、どうしよう、どうしようという危機感を日々持っていていらっしゃるのかなと思っております。

質問になるんですけれども、(4)欠員数の推移というところで、やはり4歳児、5歳児の欠員はすごく多い状態ですけれども、1歳児、2歳児が入れない状況が続いているところで、特に1歳児、2歳児が入れないと復職もできなかつたりするので、ここがやっぱりすごく重要なところだと考えております。令和7年4月入園に向けては、1、2歳児メインの私立認可保育園の分園という形で整備をしてくださっていたのは知っているんですけれども、今後の令和8年4月入園に向けての玉川地域の私立認可保育園の2園の新規整備、また、砧地域のところというのは1、2歳児をメインにしたものなのか、全年齢向けのものなのかというのを確認したいと思います。

加藤会長
北川課長

では、今の確認させていただきたいことをお願いします。

本当に保育園が足りていないということで、こちらも重々認識しております。今年4月には3園の新規、分園の整備を行っております。1、2歳を中心にと行うことを行っておりますけれども、現在、今回の待機児童を踏まえまして需要量のところの再推計を行っているところでして、委員がおっしゃったような第1子無償化の影響ですとか、そういったところも含めて改めて需要量を再推計しまして、それに対する対策ということで現在検討を進めているところでございます。

〇〇委員の御質問につきましては、基本的には委員がおっしゃったように、3歳から5歳については欠員が出ている状況もありますので、特に1歳の部分が足りていないというところがありますので、基本的には1、2歳を中心にした保育園の整備を考えているところでございます。

委員

ありがとうございます。それを受けてなんですけれども、また1、2歳を中心整備をしてくださるといことで少し安心したんですが、ぜひこの部分はやっていただきたいのと、3歳、4歳、5歳というところで、欠員が生じている園に対しては難しいというのは前も議会で聞いて知っているんですけれども、できるだけ1歳児の定員を増やすような形で保育園にもお願いしていただいて、何とか1、2歳で入れるようにというところを頑張っていただきたいなと思います。意見です。

北川課長

あと、新規整備に加えまして、保育室から移行する認可保育園なんか

もごさいますので、そういったところを含めて総合的に考えていきたいと思っています。以上です。

委員

資料5ページの(5)保育待機児童の状況と傾向の3つ目の点の最後のところで「保育人材の不足により計画していた定員を確保できていない状況も発生している」ということなんですが、これは実際どのくらいのところが発生しているのでしょうか。というのは、結局、0、1、2歳のところだと先生の数が多く必要なので、それが足りないから、足りないからと言われてしまうところがすごくリンクしていると思うんです。保育人材が足りない、先生がいないということで保育ができていない状況について、もう少し教えていただければと思います。

北川課長

こちらにつきましては、さらに定員を増やしていただきたいということでの要請、お願いをしているところでございますけれども、特に区立の保育園につきましては、近年、採用の状況がなかなか厳しいところもありまして、面積にはまだ余裕があるんですけども、やっぱり人の配置が難しいということで定員が増やせないような状況も発生していますので、そういった人材不足というところ、現状の職員の配置については足りている状況ではあるんですけども、さらに定員を増やしていくというときに人材の不足でなかなか厳しい状況が出ているということで、世田谷のほうの福祉(2類)につきましては、今度の4月に向けましては、試験制度の見直しをして応募者を増やすような取組なんかも今しているところでございますので、人材確保には努めていきたいと思っております。以上です。

委員

もう一つ、人材不足ということは本当に言われていることではあるんですけども、一方で弾力化なんですけど、いろんな調査とかに行くと、弾力化で、たくさん子どもが入っているところを見かけるんですね。弾力化の場合は、今は125%までかなと思うんですけども、そのあたりでマックス入っているところとかがあるのか、もう弾力化ができない状況なのかとか、そのあたりの状況についても少し教えていただければと思います。

北川課長

特に砧地域なんかですと、昨年度待機児が多く出ているエリアでしたので、弾力化等のお願いをしていたところですけども、やはりもうなかなか厳しいという園も出てきておりますので、可能な範囲で今お願いをしているところでございます。以上です。

委員

そこら辺については、どこが何%とか、そういった詳しいことは特にないという形でいいでしょうか。

事務局

ちょっと補足させていただきます。各園での定員と、弾力化のほうに

つきましては保育課でも確認しておりまして、委員お話しのとおり120とか、そこまで行っている園があるかどうかというのはチェックしながら弾力化を行っています。

120等の割合につきましては、ゼロから5歳の全体の中でどれぐらい弾力化できるかという範囲になってきていますので、区の場合ですと1歳児を増やしたい、2歳児を増やしたいというところがございまして、その点につきましては、弾力化を超えてしまいますと減算になってしまいますので、その範囲の中で可能な範囲でお願いしたいということをしているところではございますが、各園ごとにどれぐらい弾力化しているかというのは把握しながらですけれども、全体としてはマックス行っている園はないんですけれども、1歳児と部屋の面積とを見て、これ以上増やせないというところがやはりちょっと出てきている状況でございます。以上です。

委員
加藤会長

ありがとうございます。大体分かりました。

1点目の人材不足が公立のところ結構生じているということで、だからといって、公立保育士の試験を易しくするわけにはいかないと思いますので、いかに公立保育士の魅力を伝えていけるのかといったことも問われているのかというふうにも思いました。ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

委員

世小Pの代表で来ているのですが、私はまさに本業が保育士として、新規の保育園が増えていくというのは保護者としてはとてもありがたいものですが、既存保育園の保育環境の現状というのものも、保育士が持続して勤めてゆくのには難しい部分があります。皆さまも、家庭の中で1歳の子どもを見ているというのはすごく大変なので、ご存じかとは思いますが、今、保育士は1歳児だと1人で6人を担当して見ていくような状況です。私は勤めている保育園が渋谷区なので、世田谷区の保育園の状況は分からずお話をされていて申し訳ないのですが、安全対策に対して、門の調子が悪いとか、ここの動線が悪いからちょっとガードをつけたいのにつけられないとか、そういったことに対してもやっぱりなかなかお金がなくてとか改善してもらえない部分があります。子どもの安全にずっと配慮しながら、そういったちょっと損傷している部分ですとか、不具合がある部分にずっと気をつけながら保育していくというのはやはりなかなか大変だなと感じます。

でも、1歳の子どもは扉が開いていけば出ていってしまうし、言葉だけで静止するものなかなか難しい。とはいえ、保育士も1人しか体がな

い中で6人の子どもを、子どもたちのやりたいことを認めてあげながらも生活していく中で、子どもたちにやりたいことをやらせてあげたい気持ちと、自分たちで6人を何とか安全にずっと見続けるということのジレンマに本当に悩まされながらやっている状況でして、そういったことにもやっぱりお金を使っていける、安全対策がされた環境を守っていけるような形で園がお金をきちっと使って、保育士が安心して子どもたちを保育できるような環境を整えてあげるというのも保育士が長く勤められる秘訣になってくるのではないかと思います。

求人に関しての話になってしまうのですが、私は子どもが3人おりますので、パートタイムでの就労を選んでいるのですが、確かに保育士はなかなかお給料が少なく、今、BOPのプレイングパートナーのほうが全然お給料が高くなっていて、あちらは無資格でできるのにお給料が高いなど。自分たちの勤めよりも時給が高くていいな、なんてちょっと思ってしまうぐらいです。私は渋谷区の私立の認可保育園で勤めているのですが、やっぱり区立のお給料のほうが何となくいい印象があります。ちゃんとボーナスとかもつけてくださっているというところではいいなと思いつつも、逆にパートの時間だと早番で勤めなくてはいけない、では、早番で7時とか7時半から勤めるときに自分の子どもをどうしようとか、そういうことがなかなかハードルになってきて、決まっている時間で勤めるのがなかなか難しいなと感じます。やっぱり子育てがもう少し抜けてからなのかなと思いつつも求人を見ておりますが、小学校の子どもたちのイベントにも参加したいとか、保護者会にも参加したい、そういった形で働くというところの部分で、決まったもので勤める難しさはやっぱり感じております。保育士側の意見になってしまいましたが、よろしくお願ひします。

加藤会長

保育士がしっかりと社会的に評価されて、保育士が余裕を持って働ける、そして、専門性をしっかりと発揮できるような環境、状況をどうつくり上げていくのかという大事な御指摘だと思います。ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

では、貴重な御意見ありがとうございました。それでは、本件については以上とさせていただきます。次に、報告(3)、資料4になりますが、認可保育所等の入園申込みに関する取扱い変更について、事務局より説明をお願いいたします。

渡邊課長

それでは、資料4、認可保育所等の入園申込みに関する取扱い変更について、保育認定・調整課長の渡邊から御説明をさせていただきます。

1の主旨ですけれども、入園申込みに関しまして、区民の皆様からい

ただきました御意見等を踏まえまして、区民の利便性向上等を図るため、以下の2点について、入園申込みに関する取扱いを見直すこととしております。

2の見直し内容を御参照ください。まず、1点目の(1)入園申込書の有効期間の見直しでございますが、現在の有効期間は申込みから6か月間としておりまして、9月1日以前に申込みをされた場合には、翌年の4月入園選考前に有効期限を迎えるため、4月入園を希望する場合には9月2日以降に改めて申込みをしていただく必要があります、必要書類等を用意する負担が保護者に生じております。そうしたことから、②見直し内容に記載のとおり、有効期間を申込み月から1年間に延長し、再申込みにかかる保護者の負担を軽減いたします。

③適用時期、④周知方法を併せて御参照ください。適用時期につきましては、③に記載のとおり、今年度既に申込みをしていただいた分につきましては申請日に遡って1年間の有効期間とし、個別に通知をし、周知をいたします。また、今後の申込者に対しましては、窓口、区のホームページ等により周知をいたします。

次に、2点目ですけれども、次のページ、(2)入園申込みスケジュールの見直しを御参照ください。現在、入園申込みにつきましては、窓口申請、電子申請及び郵送申請により受付をしております、郵送申請の締切り日を窓口申請及び電子申請より5日程度早く設定をしております。これは郵送で受理した申請書や添付書類等につきまして不備などがあつた場合に保護者に補正をしていただく時間を確保することを目的としております。

こうした中、電子申請の利用が増えるにいたがしまして不備の補正や書類の追加提出等が間に合わず、選考対象から外れてしまうなどのケースが生じております。そのため、②見直し内容に記載のとおり、電子申請の締切り日を郵送申請と同じく窓口申請の5日前に変更し、保護者の皆様が不備の補正や書類の追加提出等に対応する時間を確保できるように変更いたします。

③適用時期、④周知方法を併せて御参照ください。電子申請の締切りが早くなることで提出漏れが発生しないよう、窓口や区ホームページなどで周知期間をしっかりと確保し、8月入園、9月入園分につきましては現行の締切り日とし、10月入園分から変更いたします。

3の今後のスケジュールにつきましては、記載のとおりでございます。

説明は以上です。

加藤会長

保育所の入園申込みをする際には書かなければいけない書類もたくさんありますし、申込みをする際に一緒に提出しなければいけない様々な必要書類を取り寄せる必要もありますので、そのあたりの申込みをされる方の立場に立った形での申請の締切り日の変更ということでしたけれども、この件について御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

保育所を申込みされる方の意見をしっかりと酌み上げて変更いただくということは保護者の皆様にとっても本当にありがたいことだと思いますので、ありがとうございます。もしなければ、以上とさせていただきます。

それでは、続きまして、報告(4)、資料は5番になります。世田谷区における第1子保育料等無償化の取り組みについて、まず事務局より説明をお願いいたします。

渡邊課長

引き続き渡邊から説明させていただきます。資料5、世田谷区における第1子保育料等無償化の取り組みについてでございます。

1の主旨ですけれども、子育て支援の一層の拡充を図ることを目的に、認可保育所等の保育料を無償化するとともに、認可外保育施設等利用者に対して無償化相当分の補助を拡充いたします。また、一部が利用者負担となっている給食費を無償化いたします。

2、保育料無償化・補助の拡充を御参照ください。まず、(1)認可保育所等保育料の無償化ですけれども、現在、保育料を負担いただいておりますゼロから2歳児クラスの住民税課税世帯の第1子分を無償化し、認可保育所等に通う区内在住の全児童の保育料を無償化することといたします。続いて、(2)認可外保育施設等利用者への保育料補助の拡充でございますが、保育施設利用者の保育料負担につきましては、認可と認可外及び認可外間での公平化等を図ることとし、子どもの出生順や所得階層に関わらない補助金額に拡充をいたします。

まず、①認証保育所ですけれども、1ページの拡充後の区の補助額欄を御参照ください。保育の必要性の認定を受けた場合には、年齢を問わず月額8万円、認定を受けていない場合には、ゼロ歳から2歳児クラスにつきましては5.2万円、3から5歳児クラスにつきましては4.3万円をそれぞれ補助の上限といたします。

2ページを御参照ください。②保育室、保育ママですけれども、月額保育料を区がそれぞれ4万5,000円、2万5,000円と定めておりますことから、その金額を補助金額といたします。

続いて、③企業主導型保育施設ですけれども、こちらも国が定めてい

る保育料相当額を補助の上限額としております。

続いて、④事業所内・院内保育施設及び3ページの⑤ベビーホテル・その他の認可外保育施設を御参照ください。こちらにつきましては月額8万円を上限といたします。また、⑤のベビーホテル等につきましては、保育の受皿となっている現状に鑑みまして、契約保育時間並びに待機児童要件にかかわらず、月額8万円を上限額といたします。なお、3から5歳児の給食費の無償化相当分につきましては、④、⑤の施設につきましては、給食提供の実態に合わせて上乘せをして補助してまいります。

(3)未就園児の定期的な預かり事業にかかる利用料補助の拡充につきましては、日単位で利用される事業でありますことから、日額3,000円を補助上限額といたします。

続いて、(4)定期利用保育事業につきましては、待機児童のみが利用できる事業であることから、認可保育所等と同じ11時間利用の保育料を上限に補助をするものです。

4ページにお進みください。(5)私立幼稚園等の預かり保育料補助の拡充につきましては、上限額を月額1万6,300円としております。

続いて、3、給食費（副食費、主食費）の無償化です。(1)副食費につきましては全年齢で徴収しないこととし、私立保育所等に対しましては副食費相当分を運営費として支給することといたします。(2)主食費につきましては、認定こども園及び給食を提供している新制度移行幼稚園に対しましては、主食費相当分を運営費として支給することといたします。

4、事業開始日につきましては令和7年9月1日を予定してございます。

私からの説明は以上です。

加藤会長

第1子保育料等無償化と、それに伴うほかの認可外保育施設利用者の方々に不公平にならないために補助の拡充策ということで御説明いただきました。この件につきまして御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。では、まず〇〇委員、お願いします。

委員

1つ質問させていただきたいんですけども、3ページと、その前の④、⑤あたりの認可外保育施設の件ですけども、これは普通の一般的な無償化のところと同じように、その施設が無償化を受けられるかどうかの基準というか、そういうことについてはどういうふうにしているんでしょうか。最初は便宜的に無償化ということで一括でやっていたと思うんですけども、無償化から5年過ぎて、そのあたりのチェックというのが進められているのかどうかも私は確認していなくて、これでま

た、ここのベビーホテルも上限8万円というふうになってくると、この施設がそれにふさわしいかどうかみたいなのところの担保というのはどうなっているのか、そこを教えてください。

渡邊課長

今、委員からおっしゃっていただきましたとおり、全ての施設が保育料補助の対象となるわけではございませんで、それぞれの施設におきまして国が定めている保育の施設基準がございますので、そちらを満たす施設、我々は少なくとも年1回、各施設に巡回訪問しまして、保育の状況ですとか施設の基準といったところの確認をしております。その国が定める基準に基づいて合致している場合には証明書というのを発行します。その証明書が発行された施設にお子さんを預けている場合には保育料の補助が対象となることで、施設がその補助の基準に合致しているかにつきましては区のホームページでお知らせをしております、施設を通して、利用されている方に対して保育料の補助の御案内をしているところでございます。以上です。

委員

では、それも改めて、それに該当するマル適マークみたいな、そういうものがつけてある施設がどこなのかみたいなことも入園する方たちに分かりやすいように教えていただければと思います。それは認可外保育施設の基準があると思うんですけども、それに合わせているということでしょうか。

渡邊課長

その国の基準につきましては、認可外保育施設の基準につきまして国が定めているものでございまして、その内容で確認をして、合致している場合には証明書を交付するといった手続になっております。以上です。

委員

やっぱり事故があったりとかしたので、そこが一番気になる場所なので、そういう監査をするほうとの連携もよろしく願いいたします。

加藤会長

本当に様々な保育施設があるわけですけども、子どもたちの保育を受ける権利、質の高い保育を受ける権利を大切にしようということは、世田谷区ではずっとそれを大切にしながら、待機児がたくさん出る中で、いかに質の高い保育を実現していくのかということで議論され、実行されてきました。今お話しがあった部分に関しましても、ベビーホテル、認可外保育施設を利用されている子どもたちがしっかりと保育を受けることができるような、マル適マークということがありましたけれども、そういったこととも連動させる形で補助してほしいということだと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

ほかにはいかがでしょうか。

委員

幾つか質問です。1つ、各保育施設に関する補助金額に関してなんで

すけれども、企業主導型保育施設は月額上限が3.8とか3万というところで、ほかの認可外の施設に比べて低い金額になっているかなと思っております。これは国のほうからの助成があるから3.8万であったり3万というところで、この施設については十分な金額となっているからこの金額であるという認識でいいのかなどうか。あとは私立幼稚園等の預かり保育料に関しても1万6,300円となっているんですけれども、これが本当に十分な金額、施設の利用者に対して補助額として妥当なところなのかということの説明いただきたいです。

加藤会長
渡邊課長

その補助額の根拠をお願いします。

まず、企業主導型につきましては、国で保育料相当額、いわゆる保護者の方が負担していただける金額ということで国のほうで定めをしております。その金額が今お示ししております補助金額とイコールになっておりまして、基本的にはその中で保護者の負担がゼロとなるような形で補助できているものと考えております。ただ、一部の企業主導型保育所につきましては、例えば英語教育ですとかリトミックなどいろいろなサービスを行っておりまして、その関係で特色あるサービスを行っている中で保育料がどうしても高額となる場合もあります。中には月額10万円を超えるような保育料を設定しているところもありますけれども、基本的には国の基準に基づきまして、その考え方の中で区として補助金額を設定しているということでございます。

それから、幼稚園の預かり保育につきましても、これは各幼稚園、私立幼稚園さんで行っている預かり保育の利用料等の実態を鑑みまして1万6300円の中で収まるということで、この金額を設定しているところがございます。以上です。

委員

ありがとうございます。理解しました。

もう1点だけ質問なんですけれども、副食費とか主食費に関してですけれども、私立保育所とか認定こども園に対しては運営費として施設に支給をするということだと思えるんですけれども、これによって、その施設は利用者の保護者に対して副食費であったり、主食費を請求しないというふうになっているのか、そのまま請求を続けるようなことがあるのかどうかというのはどういうふうに確認するのかなと思ひまして、聞きたいです。

渡邊課長

各私立保育園さん、こども園さんも含めまして、給食費の部分につきましては、保育料とは別にそれぞれの園で徴収をさせていただいております。この部分につきましては園長会等で周知をさせていただきまして、今後は徴収しないようにということで御説明をしております。その

代わりに、区から運営費として主食費相当分、副食費相当分を上乗せした形でお支払いするというお話をしておりまして、理解をいただいているものというふうに認識しております。以上です。

委員

すごい制度が始まるなと思っているんですが、認可外保育施設の部分について先ほど〇〇委員から質の話があったんですが、せっかく東京都のベビーホテルのリストから世田谷区のリストに移行したというか、児童相談所ができたということもあって、区が直接確認をしていただいていると思いますので、今日も配られている保育の質ガイドラインであるとか、世田谷の特徴である保育ネットへの参加といったことをぜひ確認、証明書を発行しているところだけではなくて、できればこういうところにきちっと出てくるとか、研修を受けるということについて区の強制力があるのか分からないんですが、ぜひそういった質のところの担保の取組を条件にさせていただけないかなと思いました。以上です。

加藤会長

この機会を捉えて、質の向上というところを促進させていくということで、事務局からお願いします。

渡邊課長

御意見ありがとうございます。我々も少なくとも年1回以上、各施設には訪問させていただいております。それ以外にもそれぞれの保育のサポートの部分ですとか、そういったところでも巡回の相談を受けているところがございます。そうした中で、今お話しがありましたガイドラインですとか、そうしたものは直接持って行って、説明をしてということで取り組んでおりまして、保育の質の向上に向けてそれぞれ対応を取っているところがございます。委員の御指摘も踏まえまして、今後、引き続き保育の質の向上に向けて取り組んでまいりたいと思います。

補足ですけれども、研修につきましても、認可外保育施設を対象とした研修を我々で実施しております。幅広くお声がけをしておりますので、引き続き参加していただけるような時間帯ですとか、そういったことも工夫をして、質の向上に取り組んでいきたいと思っております。

大里副参事

保育の質向上担当の大里でございます。保育認定・調整課の指導と併せて、今、保育課のほうでサポーターということでのシステムがありますので、情報共有を図りながら、保育の質の向上に向けて取り組んでいきたいと考えております。また、保育の質ガイドラインのところも併せて一緒に考えながら進めているところなのと、今、〇〇委員からお話がありましたように、保育ネットのほうでは直接それぞれの保育園、区立、私立というふうにとられることなく、今、足を運びながら、いろんな形で保育ネットの中での連携が始まり、また広がっているところですし、また、保育ネットのほうに認可外保育施設も顔を出していただける

ようになっておりますので、引き続き幅を広げながら、多くのところに参加していただきながら共有を図って、保育の質の向上に努めてまいりたいと考えております。以上です。

加藤会長

それでは、本件については以上とさせていただきます。ありがとうございます。

次に、報告(5)、資料は6番になりますが、区の補助事業による民設民営放課後児童クラブの整備・運営状況について、事務局よりお願いいたします。

渡邊課長

児童課長の渡邊と申します。渡邊が続いておりまして、申し訳ありません。私から、区の補助事業による民設民営放課後児童クラブの整備・運営状況について御説明させていただきたいと思っております。

お手元の資料6を御覧ください。区では、全区立小学校の施設を利用して、遊び場を通じて異年齢児童の交流、創造性、社会性、自主性を培う放課後の遊び場であるBase of Playing、BOPと、児童福祉法に基づく放課後児童健全育成事業である新BOP学童クラブを統合して新BOP事業というものを実施してまいりました。しかし、共働き家庭の増加などによって子ども人口が減少傾向にあるにもかかわらず、新BOP学童クラブの登録児童数は増加し続けておりまして、加えて小学校の35人学級の導入、インクルーシブ教育の推進等の影響によって新BOP学童クラブの大規模化、また狭隘化が課題となっております。

このような状況から、学校外で区の補助事業として運営する民設民営放課後児童クラブを整備することによって子どもや保護者の選択肢を広げるとともに、新BOP学童クラブの規模の適正化を図ることといたしました。なお、民設民営放課後児童クラブの運営に当たっては、新BOP学童クラブの事業内容を基本的に踏襲しておりまして、利用料も同額とするほか、令和4年度に区が質の確保、向上を目指して策定いたしました世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針、先ほど保育園のガイドラインの話がありましたけれども、これの学童版みたいなものですね、そういったものを策定しておりますけれども、そういったものを十分に理解していただいて、成育支援の質の確保をしつつ、区の事業に積極的に協力できることなどを要件とさせていただいております。

1の民設民営保護児童クラブの整備・運営状況について御説明させていただきます。令和6年4月より、区内5か所で民設民営放課後児童クラブが開所したところからスタートいたしまして、今年の4月には新たに6施設が開所、現在、11施設が運営をしております。民設民営放課後児童クラブ11施設の合計定員が558名のうち、今は344人の児童の利用が

ございます。また、支援の質向上を目指す取組といたしまして、昨年度から新BOP学童クラブ、そして、民設民営放課後児童クラブに対して、学識経験者やベテランの実務経験者による伴走型巡回支援というものを実施しております。さらに、区の実施する研修に民設民営放課後児童クラブの職員の方々にも参加をいただくなど、世田谷区全体の放課後児童健全育成事業の質の底上げを図っているところです。なお、施設整備を進めるに当たっては、これは保育園でやってきた形でもあるんですけれども、民間事業者が自らテナント等を確保して整備、運営する提案型という整備手法、もしくは公有地、区が持っている土地を活用しまして、そこに複数の事業者さんから手を挙げていただくという形で一つ選びますという形の誘致型、そして、これは世田谷区が独自で国と協議をして進めたものになりますけれども、認可保育所の中の余裕スペースを活用して小規模の学童クラブを運営する認可保育所等活用型というものの様々な整備手法によって施設整備を進めているところです。

2 ページにお進みいただきまして、開所した施設及び開所が決定している施設の一覧を記載しておりますので、御覧ください。各施設に優先受入校というものを設定しているんですけれども、定員の8割以上をこちらの優先受入校の児童で受け入れていただくルールとしております。また、所在地に保育園の記載がある施設もあるかと思っておりますけれども、これが認可保育所の余裕スペースを活用した学童クラブを実施している施設となります。

続きまして、2、新たな整備計画についてです。民設民営放課後児童クラブの整備を開始することとした令和4年度当時は、登録児童数の見込みから令和10年度までの施設整備の見通しを立てて進めていたんですけれども、新BOP学童クラブの登録児童数の伸びが当初の予測値から大幅に乖離が生まれました。このため、将来人口推計、これまでの登録児童数の推移、地域や学年ごとの学童クラブ登録率の推移、そして、伸び続けている保育園の利用意向率なども加味しまして今後の登録児童数に関する分析を行ったところ、放課後児童健全育成事業の利用意向率というものが引き続き伸びていく想定となりました。このため、新たに想定した需要量見込みに対応しつつ、新BOP学童クラブの大規模化等の解消を実現するために、令和7年度から令和11年度までの整備計画を新たに策定しております。

下に新たな整備計画を示す表が記載しておりますので、そちらを御覧いただければと思うんですが、表中の②、R4年予測値の令和10年の時点のところ、7,409人という登録児童数を予測していたんですけれども

も、新たに推計をし直して、現在予測値の部分では9,464人という推計値が出ています。なので、約2,000人の乖離が見られたということになります。もともとの整備の見通しの頃から、今、各新BOP学童クラブの登録児童数が200人超えるようなところも出てきてしまっている状況が続いているんですけども、これをどこの新BOP学童クラブも120人以下にすることを目指しておりまして、児童人口の減少が一定程度進むことが予測されている令和16年度時点の需要量を踏まえて、③に記載しているところで、令和11年度時点、1,952人分と書いてあると思うんですけども、その1,952人分を確保するために民設民営放課後児童クラブの施設整備を進めていくという計画になっております。こちらの整備計画につきましてはあくまで令和6年度時点での各データに基づいて算出しておりますので、令和10年度をめぐり、改めて児童人口がどういふふうに移しているのかとか、保育園と学童の利用意向率の動向を踏まえながら精査を行うことを予定しているところです。

4ページ目以降に、保護者宛てのものになりますけれども、参考資料として、新BOPの御案内の資料を添付しております。世田谷区独自で新BOP学童クラブとか新BOPと言っていますので、なかなか分かりにくいだろうなと思っていますので、この保護者宛ての御案内を参考資料として添付させていただきましたので、併せて御確認いただければと思います。

説明は以上です。

加藤会長

学童クラブについて、利用予測を再集計した結果、かなり利用が伸びるのではないかとすることを前提としまして、量の問題、あと、以前から問題になっている質的なところ、その両方を見ながらどう推進していくのかということをお説明いただきました。

2ページ目には、今年の4月から保育所を運営している法人が学童クラブを実施していくということで、比較的小規模の学童がスタートした様子なんかも見受けられるかと思っています。

それでは、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

委員

この整理計画に関しては、大変な中で施設も増やしていくということで考えられているかと思いますが、人の面で、先ほど保育士さんの給料よりもプレイングパートナーのほうが高いということで、頑張っている人を確保しようとしているところはかなりあると思います。

ただ、本当に子どもたちが多くの中で人をとにかく増やすということは大事だと思うんですけども、プラスアルファで、ちょっと配慮が必要

な子どもも増えていて、そういった子も新BOPでは受入れをしているところもありまして、やっぱりある程度専門的な対応ができる人も増やしていかなければならないのではないかと考えています。プレイングパートナーさんとかは資格がなくてもできるというものだったりするんですけども、ちょっと配慮が必要な子に対してちゃんと対応できるような人を増やすというところはどのように考えられているのか。本当にそういった人材は奪い合いだと思うので、いろんなところに配置するというのはなかなか難しいかもしれないんですけども、教えていただければと思います。

渡邊課長

いわゆる要配慮児童に対してのということのまず前提として、先ほど〇〇委員からもプレイングパートナーの話がありまして、確かに今、1460円というかなり高額の時給という形です。ただ、プレイングパートナーというのは実はアルバイト的な任用ではなくて、いわゆる雇用契約を結んでいない形なので、学童クラブの職員かと言われれば職員ではないんです。なので、地域のお手伝いというふうな位置づけで入っていただいています。新BOP学童クラブというすごく特殊な仕組みの中で事務局長という方がいらっしゃるって、児童指導という世田谷区の常勤の職員がいて、指導員という非常勤職員がいるところに地域の方々、大学生だとか、子育てを終えられた方で少し時間に余裕が出てきたので子どもたちとということ元保護者の方が入ってきたりということでプレイングパートナーが存在しているという形で新BOPは運営させていただいております。

時給が上がったことによって大学生の人気もかなり上がってきて、逆に指導員になるよりプレイングパートナーで続けたほうがいいんだみたいなことで、そういう状態まで出てきてしまって私たちも困った状態にはなっているんですけども、実はアニメなんかも作らせていただいて、先ほど漫画で周知するみたいなものがありましたけれども、都市大学の学生さんと共同して、都市大学の学生さんにアニメを作ってもらって、本物の結構有名な声優さんに声を当てていただいて、アニメを作ったりしながら周知を進めたところ、プレイングパートナーに関しては物すごく問合せをいただくような形になってきているんです。確かに無資格でできるとか、1時間からもできちゃうみたいところで、かなり敷居が低く入ってきていただけるのがプレイングパートナーということで今進めているところです。

その中で、要配慮ということでの対応で考えると、今、私たちですごく直面しているのは、要配慮のお子さんの中でも、そのお子さんの特性

中での強弱がとてもあって、物すごく自傷、他害をしてしまうようなお子さんもいらっしゃる、じっとしているお子さんもいらっしゃるというところでの個性が豊かな状態であって、行動に規制をかけなければその場にいられないというお子さんたちもいて、放課後、放デイとかも、療育機関も受けてくれないような方々というのも新BOP学童クラブに登録をされて、利用されている状況がございます。

なぜ新BOP学童クラブがこれほど大規模化、狭隘化しているかというと、定員を設けていなくて、利用要件を満たしていればどういったお子さんにも利用していただけるというところで制度が始まってきているからということもあるんですけども、今、全体で世田谷区の新BOP学童クラブを大体9,000人弱ぐらい利用されている中で、児童票という形で、こういうところに配慮を要するというところで保護者の方に出していただく書類があるんですけども、それを出していただく方は大体5%ぐらいなんです。ただ、この5%のところはどんどん増えてきているところもあり、先ほどの強弱もあるという中でいうと、やっぱり私たちが一番気をつけなければいけないのは、新BOP学童クラブは療育機関ではなくて、あくまで放課後の生活の場なので、子どもたちがどのように充実した放課後を過ごすのかという視点で新BOPの職員たちは関わっているというところで、そこはかなり意識しているところです。保護者の方々もやはり療育をしてくれるんじゃないかみたいなどころでの期待はいただくんですけども、やはりそこに専門人材がいるわけではないですし、あくまで放デイではないというふうなところでの位置づけになってくると、その線引きは一定程度しなければいけない。ただ、当然、障害理解だとか、そういったところについては正しい知識も持たなければならぬので、研修等での知識拡充とかをやっているんですけども、それでもやっぱり多様なので追いつかないこともあります。

今年度からの取組として、過去には総合福祉センターとかありましたけれども、総合福祉センターとかで関わっていただいていたその筋の権威の先生に実はサポートで入っていただいて、先ほど運営方針というものをお話ししましたけれども、運営方針の別冊という形で、要配慮の子どもたちの放課後の居場所ということで、どういうふうな支援をしていったらいいかというところの指針ではないですけども、グッドプラクティスを集めるような冊子みたいなものを今作ろうとしていて、その課題検討なんかを今進めています。あわせて、心理士の先生にも入っていただいて、巡回相談という形で各新BOPを回るということの取組も

進めていて、今年度、総合福祉センターとかで勤めていた職員で、要配慮の見立てが得意な職員がたまたま新BOPにいたので、その職員を児童課のほうに引き上げてきて、各新BOPに1週間とかの単位で入って行って、その子の見立てとかアセスメントみたいなことを一緒に各新BOPの職員とやって、その子の笑顔が増えたねとか、行動抑制をしなくても、この子はこういうふうに対応すれば豊かに過ごせるよねみたいなことを一緒に考えるような取組も始めて、これがかなり功を奏しています。

なので、そういう専門人材を確保するというところで、どうしても確保に行きがちなんですけれども、その人材を確保することのほうが今すごく難しいので、どちらかというところ、かなりの人数で新BOPを運営している児童課としては、その中での内製化をいかに図るかということと、育成をどういうふうにしていくのかということに今力を入れている状況になります。

ちょっと長くなりましたけれども、以上です。

加藤会長

学童保育の担い手として、様々な子どもたちに対応できる知識とか技術とか力量をつくり上げていくということと、やはり理想としては、一人一人の子どもがこの学童でこういうふうにご覧したいなということをイメージとしてしっかりと持って自分で選べるということが理想にはなると思いますが、幸い今年度から様々な形の学童保育も始まっていきますので、そのあたりも含めて御検討していただけたらいいかなと思っています。ありがとうございます。

では、続いて、〇〇委員、お願いします。

委員

今のお話を聞いて、すごくよくなってきているなと思って、うれしかったです。ただ、医療的ケア児も来ていらっしゃるんですよね。実際問題として、いろんな機械をつけて、寝たきりのお子さんのそばでボールが飛び交うとか、そういったことが起きているのが現状だと思うので、やっぱり看護師さんの巡回の頻度を上げるとか、安全を確保する方法を考えるということは引き続きお願いしたいと思います。

あと、かなりの数の民間の学童施設をこれから整備していかなければいけないと思うんですけれども、要件の中で、提案型とか誘致型、認可保育園活用型とかあるんですけれども、例えば公的な施設、集会場とか区民センターで結構空いているところがあると思うんですけれども、そういうものを利用した場所の確保みたいなものは今現在行われていないと伺っているんですが、もったいないなと思って、将来的にそういうのを組み込める余地はあるのでしょうか。

渡邊課長

医療的ケア児に対応というのは確かに今もやらせていただいているんですけども、やはり場所の問題があって、先ほどの配慮を要するお子さんへの支援も、少し落ち着ける、安心できる場所がないとなかなか落ち着けなかったりとかというのがあるんですが、御存じの方が多いかと思うんですけども、新BOPのお部屋が大体特別教室2つ分ぐらいのところ、本当に雑多な感じの中で、それがよくもあるんですけども、当然、配慮を要するお子さんだったり、医療的ケア児からすると安全性の面で少し問題があるというところの御指摘は多々いただいているところかと思っています。

実際に医療的ケア児の場合については、今、児童課に2名看護師がおりまして、そこが巡回しながら話をしたりだとか、児童課にいる心理士が訪問看護の方々と連携をして医療的ケア児の支援をするということをやらせていただいて、かなりぎりぎりで回しているような状態にもなっているので、うまく資源を使いながら対応していかなければ本当に立ち行かないと思っています。なので、人的な支援も、場所的な支援も含めて、新BOPの中での大きな課題として認識しているところです。

余裕スペースの活用ということで、今回、保育園を活用するというところで、これは私たちとしてはすごくいい取組だと思って進めてはいるところなんですけれども、いわゆる区民センターとかのスペースを学童に転用することに関して申し上げますと、なかなか難しいというのが現状かなと。やはり学童クラブとして認定するためには最低基準を満たさなければならぬので、その最低基準を満たすためには専用のスペースにしなければならない。そうすると、区民の方々に供しているお部屋を完全に学童に変えるとなると、今まで使われていた方々が使えなくなってしまう問題も出てくるというところで、そういう区民センターのお部屋を使う、転用するという事はなかなかかなわないところかというふうに認識しております。

ただ、今、給田のほうで放置自転車の保管所、駅前に放置自転車があって、それをトラックが持って集積する場所があると思うんですけども、放置自転車というのは世田谷区は結構取り組んできて、減ってはきているんです。なので、過去にすごい台数の放置自転車が集積されていた場所が、面積がそこまで必要なくなったということがあって、給田小の新BOPもかなり大規模化しているので、給田小学校の近くにある烏山の放置自転車等保管所の面積を幾らか頂いて、そこに80名規模の学童クラブを整備するという取組を今回始めています。

なので、民間の土地や建物を使おうとすると、今どうしても不動産バブルの時期なので、物すごく賃料が高くて、幾ら賃料補助を出したとしてもかなり厳しいのが現状なので、区の持っている土地や建物みたいなものを何とか揺すって出して、そこを学童クラブに転用するみたいな視点は当然持たないと持続可能な形にはなっていないかというふうに思っておりますので、御意見としては承らせていただきたいと思いません。以上です。

加藤会長

この件に関してはほかによろしいですか。

以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。配付資料も、今日、とても重要な資料も配られていますので、後ほど見ていただければと思います。

1回目の会議ということで議事も多く、もし皆様から、こういう形で進めてもらえるともっと建設的な会議ができるのではないかとか、そういった御意見がありましたら、またお寄せいただければ、反映させていけるところは反映させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

寺西課長

加藤会長、どうもありがとうございました。また、皆様、本日は貴重な御意見、また、充実した議論を賜りまして誠にありがとうございました。

最後に、事務局から2点事務連絡をさせていただきます。まず、本日の議事録につきましては、作成次第、皆様にメールでお送りさせていただきます。御自身の発言の部分を確認いただきまして、修正がございましたら事務局まで御連絡をいただければと思います。その後、区のホームページで本日の資料とともに公開をいたします。

また、事務連絡の2点目でございます。次回の子ども・若者・子育て会議の日程でございます。次第の一番下に記載しておりますとおり、第2回の会議を10月24日金曜日の9時半から開催したいと考えております。時期が近づきましたら、会場を含めて改めて御案内をさせていただきます。

本日、全体として子どもの関係、小学校までの議題が多かったんですけども、ちょうど7月、今日の委員でいらっしゃる〇〇さんも、この間、若者ファンディングの審査員を務めていただいたりですとか、先ほどもちょっと話に出たユースカウンスルですとか、若者関連の施策も今ちょうど新規で立ち上げて取り組んでいるところですので、恐らく次の10月の会議の際には、若者に関する取組も多々御報告できると思ってお

ります。

それでは、以上をもちまして令和7年度第1回世田谷区子ども・若者・子育て会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。